

単元計画を実践した記録は、指導案の最後に記載しています。

総合的な学習の時間

第3学年

三次市立布野中学校

指導者 木戸 恵理

小山 晃生

阪本 千弥

令和6年 1月 25日(木) 5校時 3年生教室
7名 (男子4名 女子3名)

単元名

地域について学んだことを発信しよう

～地域をより良くするために自分たちができることを考えて実行しよう～

1 単元の構想

(1) 本単元で布野中学校区が育成を目指す資質・能力

○生きて働く知識と技能

布野で暮らす人々が、困っている課題を解決するために、どのように行政に働きかければよいかを調べ、得られた情報を整理・分析して目的につなげるための技能を身に付けることで、地域の課題を解決するための概念を形成する。

○調整力

意見の根拠となっている部分を比較したり共通点を見いだしたりしながら対話を進める中で、よりよい地域の課題の解決に向けて、新たな視点をもったりすることができる。

○主体性

地域の課題を解決するために、自分が取り組むべきことを明らかにし、見通しを立てて、自分なりに納得できるまで探究を進めようとする。

○自らへの自信

地域の課題を解決するための取り組みを行う中で、自分たちの考えが実際に形になっていくことを実感し、自分の特性をどのように地域や社会に役立てることができるのかを考えようとする。

(2) 生徒の実態

本学級の生徒は、日頃からペアやグループ活動に積極的に取り組むことができる。また、与えられた課題に対し、仲間と協働しながら一生懸命に取り組むことができる。一方で、7月に実施した総合的な学習の時間に関するアンケートでは、「活動を通して自分の特性に気づいたとき、その特性をどのように日常生活や社会に役立てることができるのかを考えようとしている」という設問への肯定的回答は50.0%に留まった。このことから、活動を通して気づいた自分の特性を、自分の生き方とつなげて考えていこうとする態度の高まりが不十分であるという実態が明らかになった。

(3) 指導にあたって

PBL の考え方を取り入れた、地域との関わりのある探究活動	地域の様々な人にインタビューを行うことで、交通の便が悪いという地域の課題に気付かせる。そして、その解決方法の1つとして、自分たちが開発したアスパラ生クリーム大福をふるさと納税の返礼品に採用してもらえるように市役所に提案し、得られた税収で公共サービスの向上を目指す。また、活動を通して、多くの人の働きにより社会が成り立っていることを実感させ、自分がどのように社会と関わっていくのかを考えさせていく。
ルーブリックを活用した評価と評価結果の活用	普段から形成的評価に活用し、評価結果を基に、今後の探究の方向性を調整したり、生徒の特性を踏まえて支援・指導を行ったりしていく。また、探究がある程度進むごとにこれまでの自分の活動や資質・能力の高まりを振り返らせ、今後の活動を調整させていく。
対話の工夫	得られた情報について、分担して分析させたり、活動内容を細分化し、分担して活動を進めさせたりすることで、それぞれがもつ情報や意見に交流する価値をもたせる。また、共通の目標を確認して対話させる。

(4) PBL(プロジェクト型学習)の考え方を取り入れた探究的な活動

※指導案最後に付属している、探究活動モデルを参照

2 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

インタビューで地域の課題について調べたり、地域や社会で活躍する人たちと協働したりしながら、アスパラ生クリーム大福をふるさと納税の返礼品に採用してもらうための提案方法を考え、実行していく活動を通して、地域の課題を解決するための方法について理解し、よりよい提案方法について考えるとともに、地域や社会のために自分ができることを実行していくための見通しを立てることができる。

(2) 単元の評価規準

※【 】は、布野中学校区が育成を目指す資質・能力の中でも特に関係性が深いと考えられるもの。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①地域の課題を解決していくためには、どのように協働をよびかけていくことが効果的であるかを理解している。【生きて働く知識と技能】</p> <p>②インタビューやアンケート調査、分析等で得た情報を、目的に応じて分類して表などに整理している。【生きて働く知識と技能】</p> <p>③地域の課題を解決するためのアイデアをもてたことや、自分の資質・能力の高まりが、これまでに行ってきた探究の積み重ねによるものであると理解している。</p>	<p>①地域の課題を解決していく上で必要となる情報は何かを考え、どのように情報を得たり、実行に向けてどのように準備したりしていくか見通しを立てている。【調整力】</p> <p>②地域の課題を解決していく上で必要となる情報を、効率性や信頼性等をふまえた方法で収集している。</p> <p>③地域の課題解決に向けて、収集した情報を目的に応じて整理することで、相手に合わせて効果的な説明を行うために必要な要素を見出している。【調整力】</p> <p>④地域の課題解決に必要な要素をふまえ、相手や目的に応じたプレゼンテーションを行っている。</p>	<p>①地域の課題解決に向けて取り組む中で、自分の特徴やよさに気づき、探究活動に進んで取り組もうとしている。【主体性】</p> <p>②よりよい地域の課題解決の実現に向けて、自他の意見や考えのよさを生かしながら、協働して学び合おうとしている。【主体性】</p> <p>③地域の課題解決の実現に向けて地域と関わっていく中で、自分と社会の繋がりについて考え、自分にできることを見付けようとしている。</p>

3 本単元のパフォーマンス課題(探究課題)とそのルーブリック

(1) 本単元のパフォーマンス課題(探究課題)

※指導案最後に付属している探究活動モデルで計画している探究内容そのものを、パフォーマンス課題と捉える。

(2) 本単元で布野中学校区が育成を目指す資質・能力の評価規準

布野中学校区が育成を目指す資質・能力	本単元の評価規準
生きて働く知識と技能	布野で暮らす人々が、困っている課題を解決するために、どのように行政に働きかければよいかを調べ、得られた情報を整理・分析して目的につなげるための技能を身に付けることで、地域の課題を解決するために必要な概念を形成している。
調整力	意見の根拠になっている部分を比較したり共通点を見いだしたりしながら対話を進めることで、地域の課題解決に向けて、自分たちの考えを見直したり、新たな視点をもったりすることができている。

主体性	地域の課題を解決するために、自分が取り組むべきことを明らかにし、見通しを立てて自分なりに納得できるまで探究を進めようとしている。
自らへの自信	自らへの自信は、「学びに向かう力、人間性等」の「観点別学習状況の評価や評定にはなじまず、個人内評価を通じて見取る部分」に対応した資質・能力であるため、一律の評価規準を設けず、子どもたち一人一人のよい点や可能性、進歩の状況を見取って、それを価値付けていく。

(3) ルーブリック

	A	B	C
生きて働く知識と技能	布野で暮らす人々が、困っている課題を解決するために必要な知識及び技能を獲得し、実生活や実社会に関わる概念を形成している。	布野で暮らす人々が、困っている課題を解決するために必要な知識及び技能を獲得し、地域の課題を解決するために必要な概念を形成している。	布野で暮らす人々が、困っている課題を解決するために必要な知識及び技能を獲得している。
調整力	意見の根拠になっている部分を比較したり共通点を見いだしたりしながら対話を進めることで、地域の課題解決に向けて、考えを発展・深化させ、合意点を見出すことができている。	意見の根拠になっている部分を比較したり共通点を見いだしたりしながら対話を進めることで、地域の課題解決に向けて、自分たちの考えを見直したり、新たな視点をもったりすることができている。	他者の考えを聞いて、地域の課題解決に向けた、自分たちの考えに活かすことができている。
主体性	地域の課題を解決するために、自分が取り組むべきことを明らかにし、必要に応じて活動計画を見直し、修正を加えながら自分なりに納得できるまで探究を進めようとしている。	地域の課題を解決するために、自分が取り組むべきことを明らかにし、見通しを立てて自分なりに納得できるまで探究を進めようとしている。	地域の課題を解決するために、自分たちに与えられた指示を果たそうとしている。
自らへの自信	自らへの自信は、「学びに向かう力、人間性等」の「観点別学習状況の評価や評定にはなじまず、個人内評価を通じて見取る部分」に対応した資質・能力であるため、ルーブリック評価による一律な評価は行わず、子どもたち一人一人のよい点や可能性、進歩の状況を見取って、それを価値付けていく。		

4 単元の計画

(1) 単元を構成する問い

<p>①本質的な問い（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）</p> <p>私たちは将来に渡って、社会（地域）とどのように関わっていけばよいのだろうか。</p> <p>②単元を貫く問い（単元を通して考え深めていく「問い」）</p> <p>布野の人々の生活をより良くするために、私たちは何をしていけばよいだろうか。</p> <p>③個別の問い</p> <p>※（2）指導と評価の計画の各時間に記載している個別の問いを参照。</p>
--

(2) 指導と評価の計画 (全 26 時間)

これまでの探究内容について	
<p>生徒は小学3年生のとき、地域の人に教わり、アスパラガスを栽培している。中学1・2年生の時には、布野のことを多くの人に知ってもらうことを目的に、特産品を使ったアスパラ生クリーム大福を企業と協働して開発し、販売プロモーション活動を行った。</p> <p>今年度は、これまでの振り返りを行う中で、アスパラ生クリーム大福の開発の動機であった布野のことを多くの人に知ってもらうという目的に立ち返り、探究を再スタートさせた。布野をよりよい町にするため、地域の方にインタビュー活動を繰り返し行う中で、多くの人が交通手段の乏しさに課題を感じていることを知った生徒は、アスパラ生クリーム大福をふるさと納税の返礼品として採用してもらうことで税収が増えれば、公共サービスを向上させることができ、交通手段の乏しさの解決に貢献できるのではないかと考えた。また、ふるさと納税に、より多くの人に申し込んでもらうための方法として、内閣府主催の地方創生★政策アイデアコンテスト 2023 への応募が効果的と考えている。</p>	

※評価項目の「生」は生きて働く知識と技能、「調」は調整力、「主」は主体性との関係性が深いことを表しており、ルーブリックを積極的に活用して形成的評価や総括的评价を行う。自らへの自信については子どもたち一人一人のよい点や可能性、進歩の状況を見取れたときに個人内評価を行う。

時数	探究活動	生徒が探究する問い ※「・」は予想される生徒の考え	評価項目
1	【課題設定】 アスパラ生クリーム大福をふるさと納税の返礼品に登録するために行っていくべき活動は何かを考える。	[個別の問い] ○ふるさと納税の返礼品に登録するためにどんな活動を行っていけばよいのだろうか。 ・市役所のどこにお願いすればいいのかを調べる。 ・登録に必要な条件を調べる。	思①【調】
2	【情報の収集】 他地域の事例から返礼品に登録されたときのメリットを調べる。	[個別の問い] ○アスパラ生クリーム大福が返礼品になればどんなメリットがあるのだろうか。 ・増えた税収で公共サービスが充実する。 ・アスパラの生産者である三ヶ津さんや、アスパラ生クリーム大福を生産してくれている渡辺精進堂の利益につながる。 ・布野を多くの人に知ってもらえる。	思②
3	【情報の収集】 どうすればふるさと納税の返礼品に採用してもらえるのかを調べる。	[個別の問い] ○ふるさと納税の返礼品に申請するにはどうすればよいのだろうか。 ・三次市のホームページでふるさと納税の申請方法を調べる。 ・ホームページにかいてないことは問い合わせ聞いてみる。	知①【生】
4	【整理・分析】【まとめ・表現】 ふるさと納税の返礼品に登録してもらうためにどのような説明をすればよいかを考える。	[個別の問い] ○市役所の方にどんな説明をすればよいのだろうか。 ・自分たちがこれまでどのような活動を行ってきたのかを伝える。 ・交通の便が悪いという地域の声を伝える。 ・増えた税収を公共サービスの充実にあてて欲しいという要望を伝える。 ・渡辺精進堂に確認して、ふるさと納税に使用できる個数を伝える。	思③【調】

5	<p>【課題設定】 地方創生★政策アイデアコンテスト2023への応募に向け、自分たちの活動内容をまとめていくためのスケジュールを立てる。</p>	<p>[個別の問い]</p> <p>○コンテストの応募に向けて、時間配分をどのようにすればよいのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スライド作成に多くの時間を必要とするので、分担して作成すればよい。 ・これまでの活動をまとめることや、インタビュー調査の分析等にも時間が必要。 ・これまでの受賞作品の内容分析も必要。 	主①【主】
6	<p>【情報の収集】【整理・分析】 昨年度の受賞作品を分析し、自分たちの活動内容をどのようにプレゼンテーションにまとめていけばよいかを決定する。</p>	<p>[個別の問い]</p> <p>○自分たちの活動内容をどのようにプレゼンテーションにまとめていけばよいだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・布野の現状と課題については入れるべき。 ・なぜふるさと納税の返礼品にすることが有効なのかを伝えたい。 	思②
7 10	<p>【まとめ・表現】 応募に向け、活動内容をプレゼンテーションにまとめる。</p>	<p>[個別の問い]</p> <p>○自分たちの考えがより伝わるようにするためには、どのように内容を工夫すればよいだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文字の説明を減らすにはどのような工夫をすればよいだろうか。 ・アスパラ生クリーム大福に込められた思いや三ヶ津さんの思い、これまでの活動についての説明は必要だろうか。 	知②【生】
11	<p>【課題設定】 プレゼンテーションを改善するために、文化祭でどんな意見を集めればよいかを考える。</p>	<p>[個別の問い]</p> <p>○プレゼンテーションを改善するために文化祭でどんな意見を集めたらよいだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの自分たちの取り組み内容が伝わっているか。 ・布野の現状について伝わっているか。 ・布野の人々の生活をより良くすることにつながっているか。 ・ふるさと納税の返礼品に採用してほしい理由が明確か。 ・レイアウトはわかりやすいものになっているか。 	主②【主】
12	<p>【情報の収集】 文化祭でプレゼンテーションの発表を行い、改善点について意見をもらう。</p>	<p>[個別の問い]</p> <p>○前時に考えた意見をもらえるようにするためには、発表にどんな工夫をすればよいだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの自分たちの取り組み内容を、要点を絞って説明する。 ・ふるさと納税の返礼品に採用してほしい理由を、「布野のためになる」という視点で表現する。 ・レイアウトをわかりやすいものにする。 	思②
13	<p>【整理・分析】 文化祭でもらった意見を整理し、改善に必要なポイントをまとめる。</p>	<p>[個別の問い]</p> <p>○文化祭でもらった意見から、どんな改善をすればより良いプレゼンテーションになるだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スライド1枚に情報が多くなりすぎないようにする。 ・なぜ、ふるさと納税の返礼品に登録することが布野の人々の生活をより良くすることにつながるのかを分かりやすくまとめる。 	思③【調】

14	<p>【情報の収集】 ふるさと納税の返礼品に採用される条件について、市役所の担当者から話を聞く。</p>	<p>[個別の問い] ○三次市のふるさと納税の返礼品に採用してもらうために必要な条件や、プレゼンテーションのポイントは何だろう。 ・三次市内で製造されたもの。 ・消費期限が長く、冷凍可能なもの。 ・税収の現実的な使い道について。</p>	思②
15 (17	<p>【まとめ・表現】 これまで集めてきた情報や、自分たちが考えたプレゼンテーション内容をもとに、市役所で発表する際のパワーポイントの資料を作成する。</p>	<p>[個別の問い] ○相手に伝わりやすいパワーポイントにはどんな工夫が必要だろうか。 ・見出しを付ける。 ・文字を大きくしたり、図や表を用いたりして示す。 ・インタビューや調べたことの結果を根拠として、自分たちの考えを展開していく。</p>	知②【生】
18	<p>【課題設定】 中間発表で、発表する際に意識するポイントと、聞き手に評価してもらいたい点を挙げる。</p>	<p>[個別の問い] ○発表内容で特に意見が欲しい箇所はどこだろうか。 ・布野の現状について伝わっているか。 ・布野の人々の生活をより良くすることにつながっているか。 ・ふるさと納税の返礼品に採用してほしい理由が明確か。 ・レイアウトはわかりやすいものになっているか。</p>	思③【調】
19 (21	<p>【情報の収集】【整理・分析】 [中間発表] 中間発表を行って、もらった評価をもとに、プレゼンテーションを改善する。</p>	<p>[個別の問い] ○市役所で、より自分たちの思いが伝わるプレゼンテーションにするにはどんな改善ができるだろう。 ・布野の現状についての情報が不足していたので、布野を知らない人に対してもわかりやすい内容にしよう。 ・アスバラ生クリーム大福を採用してほしい理由として、三ヶ津さんの思いと自分たちの思いをもっと心に響かせるような内容にしていきたい。 ・広島市内でのプロモーション活動で得た情報を有効に活用するには、得られた情報をさらに分析していかなければならない。</p>	思③【調】
22 (23	<p>【まとめ・表現】 三次市役所のふるさと納税関係者に向けてプレゼンテーションを行う。</p>	<p>[個別の問い] ○自分たちの提案内容を理解してもらうには、どのように発表を工夫すればよいのだろうか。 ・実物を用意する。 ・市役所にとってどんなメリットがあるのかを説明する。 ・地域や企業の人たちと協働した成果であることを伝える。</p>	思④
24	<p>【課題設定】【情報の収集】 他地域の事例などから返礼品に登録された後の企業との連携について調べる。</p>	<p>[個別の問い] ○渡辺精進堂とどのような連携を取ればよいのだろうか。 ・三次市役所に提案した結果の報告をする。 ・ふるさと納税の返礼品に登録された後の手続きの流れを伝える。</p>	主③

25	【情報の整理・分析】 必要な企業との連携についてまとめる。	[個別の問い] ○渡辺精進堂と相談して決めるべきことは何だろう。 ・商品の価格設定や消費期限などについて。 ・冷凍のまま発送してもらうことを確認したい。	知②【生】
26 ↳ 27	【まとめ・表現】 渡辺精進堂に、三次市役所に提案した結果の報告と必要な連携をする。	[個別の問い] ○どのようにまとめたら伝えるべきことが伝わるだろう。 ・これまでの活動の経緯をもう一度伝えた方が良いのだろうか。 ・これから必要な手続きを確認しておく。	知③
28	【まとめ・表現】（本時） 活動を振り返り、自分が布野とどのように関わりながら生きていきたいのか考える。	[単元を貫く問い] ○布野の人々の生活をより良くするために、私たちは何をしていけばよいだろうか。 ・ふるさとを大切に思う気持ちを持ち続けたい。 ・これからも布野を持続可能な町にし続けたいので、今回のように自分ができることを実行していきたい。 ・他の市へ出て色々なことを学び、それを布野に持って帰って活かしていきたい。	主①【主】

次の探究について

これまでの探究活動を通して分かった自己の特性や高めた資質・能力等をふまえ、中学校卒業後に向けて自己の在り方生き方を考えさせる。そして、自己の在り方生き方を実現させるため、よりよく課題を発見し解決していく。

4 本時の展開

(1) 本時の目標 【第 28 時（探究活動モデル：phase④）】

単元を貫く問い(布野の人々の生活をより良くするために、私たちは何をしていけばよいだろうか)をもとに、これまでの単元活動を振り返り、自己の資質・能力の高まりを実感することができる。

(2) 本時の布野中学校区が育成を目指す資質・能力の評価規準

単元を貫く問い(布野の人々の生活をより良くするために、私たちは何をしていけばよいだろうか)をもとに、これまでの単元活動を振り返り、自己の資質・能力の高まりを実感している。(主①【主体性】)

※3 (3)にあるルーブリックを活用して評価を行う。

(3) 本時の準備物

生徒用 iPad, 電子黒板, ワークシート, これまでの探究活動の流れをまとめた掲示物

(4) 本時の展開

※事前課題として、これまでの「探究活動で自分が頑張ったこと」「他の人の素晴らしかったこと（関心したことや感謝していること）」をワークシートに記入させておく。

	学習活動	指導上の留意点	評価規準 [評価方法]
	※ [] は、予想される生徒の考え		
導入	(I) 単元を貫く課題を確認する。	○単元を貫く課題を意識させる。	
	単元を貫く問い：布野の人々の生活をより良くするために、私たちは何をしていけばよいだろうか。		
	(II) 本時の目標を確認する。	○本時の目標を提示する。	
	本時の目標：これまでの探究活動を振り返り、自分の資質・能力の高まりを実感しよう。		
展開	(III) これまでの探究内容を振り返る。	○これまでの探究活動の写真を提示して、探究内容を振り返らせる。	
	(IV) 事前課題で考えていた「自分が頑張ったこと」を発表し合い、各自の頑張りが課題解決に貢献していたことを実感する。	○事前課題で考えていた「自分が頑張ったこと」を発表させ、一人一人の頑張りが課題解決に貢献していたことを実感させる。	
	<ul style="list-style-type: none"> ・探究の活動計画を立てるとき、広島市でインタビュー活動を行うために、みんなに納得してもらうために、作業を分担することで時間を調整した。 ・インタビューで得られた結果をまとめるときに、一目で分かるようにグラフで整理した。 ・コンテスト(地方創生☆政策アイデアコンテスト 2023)に応募するためのプレゼン資料を作るとき、スライドだけでも意味が伝わるように、説明を工夫してスライドを作成した。 		
(V) 他の生徒たちがかいていた、自分宛の「他の人のよかった」を読み、自分の頑張りを再確認したり、自分が意識していなかった良さを実感したりする。	○生徒がかいていた「他の人のよかった」を生徒ごとに分けておいたものを配付し、自分の頑張りを再確認したり、自分がこれまで意識していなかった良さを実感させたりする。		
<ul style="list-style-type: none"> ・○○さんは、インタビューをしたときに、積極的に質問をして、必要な情報を集めていた。 ・○○くんが、今年の探究活動の目標を決めるときに、「布野の人を幸せにする」という意見を出してくれたので目標を決めることができた。 ・○○くんは、プロモーション活動のときに、大きな声を出して、自分から積極的にお客さんに声掛けをしていたので凄いと思った。 ・○○さんは、自分の分担しているスライドのページが終わらなくて困っているときに手伝ってくれた。 			
(VI) 探究活動を通じて自己の資質・	○探究活動を通じて自己の資質・能力	○単元を貫く問い	

	<p>能力の高まりを振り返るとともに、自分はどのように社会と関わって生きていきたいかを考えワークシートに記入する(自己内対話)。その後、記入した内容を交流する(他者との対話)</p>	<p>の高まりを振り返らせ、自分はどのように社会と関わって生きていきたいかを考えワークシートに記入させる。その後、記入した内容を交流させる。</p>	<p>(布野の人々の生活をより良くするために、私たちは何をしていけばよいだろうか)をもとに、これまでの単元活動を振り返り、自己の資質・能力の高まりを実感している。(主①【主体性】) [振り返り記述, ワークシートの記述, 行動観察]</p>
	<p>(VII) 高等学校での探究活動(自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していく)ことを確認する。</p>	<p>○高等学校での探究活動(自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していく)について説明し、これから先に行っていく探究活動について意識をもたせる。その際、自分が社会とどのように関わって生きていきたいのかを考えていくことが求められていることをふまえて説明する。</p>	
<p>まとめ</p>	<p>(VIII) 自分が社会とどのように関わって生きていきたいと考えているのかをワークシートに記入する。</p>	<p>○自分が社会とどのように関わって生きていきたいと考えているのかをワークシートに記入させる。</p>	<p>※ここでの記述内容は、資質・能力の自らへの自信に関する記述になるため、記述内容をもとに個人内評価を行う。</p>
	<p>(IX) 次の活動内容を確認する。</p>	<p>○次時の活動内容(布野町まちづくり連合会からの依頼があること)を伝える。</p>	

(5) 板書計画

- [単元を貫く問い] 布野の人々の生活をより良くするために、私たちは何をしていけばよいだろうか？
- [本時の目標] これまでの探究活動を振り返り、自分の資質・能力の高まりを実感しよう。

これまでの探究活動を振り返るための写真を提示する

布野中学校 3 年生探究活動モデル

課題の提示・
課題の発見

phase① 現実の文脈に沿った課題と出会う。

【昨年度までの取り組み：布野を多くの人に知ってもらうために特産品を使ったアスパラ生クリーム大福を企業と協働して開発し、販売プロモーション活動を行った】
→布野をよりよい町にしたいために、さらに自分たちができていることを考える。地域の声を集めることで、交通の便が悪いという課題に気づき、アスパラ生クリーム大福をふるさと納税の返礼品にすることで税収を増やし、公共サービスを向上させることを目指す。

探究の過程を何度も繰り返す

phase② 成果の発表について事前に詳しく示される。

(日時) 発表日時：11月下旬～12月上旬
(方法) 布野の課題やふるさと納税によって期待できること等をスライド資料を作成して発表。
(相手・場所) 三次市役所の定住対策・暮らし支援課の方々。
(準備に使える授業時間) 28 時間

phase③ 成果の発表に向けて、自分たちで学習を調整しながら粘り強く取り組んでいく。

- ①インタビュー調査を行うことで、布野で暮らす人々が感じている地域の課題は何かを調べる。
- ②インタビュー調査で出てきた課題について、RESAS（地域経済分析システム）等で客観的に正しい内容であるか検証する。
- ③地域の課題を解決するためには、自分たちがどのような活動を行っていけばよいかを考える。
→その一つの方法として、アスパラ生クリーム大福をふるさと納税の返礼品にする。そして、これまでの過程を地方創生政策アイデアコンテストで発信する。
- ④広島市でアンケート調査を行い、ふるさと納税の返礼品としてニーズがあるかを確認する。
- ⑤これまでの活動をまとめ、地方創生★政策アイデアコンテスト 2023 に出品する。
- ⑥これまでの調査をふまえ、ふるさと納税の返礼品にアスパラ生クリーム大福を登録してもらったためのプレゼンテーションを作成する。

phase④ 成果の発表と探究活動全体を俯瞰した振り返りを行う。

- ・三次市役所の方にプレゼンテーションを行い、ふるさと納税の返礼品に登録してもらえようよう交渉する。
- ・単元を貫く問い(布野の人々の生活をより良くするために、私たちは何をしたいか)をいけばよいか。(をもとに、活動を振り返り、自分の資質・能力の高まりを実感させる。
- ・ふるさとである布野を持続可能な町へ近づけるために、自分は将来的に布野とどのようなつながりを持ちながら、生きていきたいのかを考えさせる。

成果の発表

実践記録

昨年まで生徒は布野を多くの人に知ってもらうために、小学校第3学年での学習をふまえ、布野の特産品であるアスパラガスを餡に練り込んだアスパラ生クリーム大福を和洋菓子店と共同開発し販売プロモーション活動を行ってきた。昨年度末、生徒から「アスパラ生クリーム大福を購入した人に、布野のことを知ってもらうにはどうすればよいだろうか」という問いが生まれたため、今年度は、この問いから生徒同士の対話を進め、活動を通じて布野をどうしたいのかという目的を考えさせることから始めることにした。



phase①では、生徒たちは昨年度の振り返りから対話を進め、自分たちの活動の目的は布野の人々により幸せな生活をしてもらうことであると気付いた。そこで、生徒たちは「布野の人々の生活をより良くするために、私たちは何をしていけばよいだろうか」という問いを立て、布野に暮らす人々が困っていることを調査し、解決方法を考え三次市役所に提案することにした。提案内容を実行するための資金に、アスパラ生クリーム大福をふるさと納税の返礼品に登録し税金を増やすことを考えた。



phase②では、生徒たちは限られた時間を効率的にやりくりしていくために活動計画を立てた。広島市で活動するという案について、初めは、提案資料作りに時間をかけるべきという意見が多数派だったが、「三次市以外の人にインタビューして、返礼品に申請してくれる人の割合が分かれば提案に説得力が出る」という意見から行うことに決まった。提案資料作りにも時間をかけられるように、作業を分担して行えるように工夫しながら活動計画を立てていった。振り返り記述では、「みんなのなやみや意見をふまえたうえで、どのようにすれば時間内に意味のある活動ができるのか、それぞれの作業の役割分担まで詳しく考えた。『作業を分けて分担を決め、早く終わったところから次の作業にうつればよい』という意見を取り入れながら計画を立てたことでスムーズに活動を進めることができました」と、仲間の意見を取り入れて自分の考えを見直すことができたので調整力をB評価とする生徒がいた。教師は行動観察もふまえてA評価と判断し、自分の考えを発展させていたことを価値付けて伝えた。



phase③では計画を実行していった。布野の人々に、何に困っているのかインタビューすると、バスの便が少なく交通の便が悪いという声が多かったため、交通利便性の向上について考えていくことにした。また、アスパラ生クリーム大福が返礼品として魅力的であるかを調査するため、広島市での活動準備も進めた。その後、文化祭で提案内容の賛否や、交通利便性以外に困っていることはないか調査を行った。調査結果を分析する中で、「文化祭に来た人の意見だけでよいのか」という問いが生まれ、布野ふるさと祭りでも地域の声を集め、提案内容を修正した。次に、三次市役所の方に事前提案を行い、そのときいただいたアドバイスを基に提案内容の最終修正を行った。



phas e④では、三次市長や担当者の方に作成した資料をもとに提案を行った。現在、返礼品登録に向けて、三次市役所で検討をしていただいている。提案後は、中学校卒業を控え、探究によって高めた自己の資質・能力をどのように社会に生かしていきたいかを考えた。生徒の記述には、「総合でレベルアップした力を活用して、中学校の社会の先生になれるように高校に入学して出会う友達としっかりコミュニケーションをとっていきたいです」という就きたい職業と関連付けたもの、「将来大人になった時も、互いの意見や考えを調整して、物事を考えていきたいです。また、自分の住んでいる地域に貢献できるように、地域の行事であるふるさと祭りなどでスタッフとして働きたいです」という社会貢献と関連付けたもの等があった。これらは自らへの自信に関する内容であるため、ルーブリックによる評価は行わず、個人内評価を行った。生徒たちは、今も、自分の特性をどのように社会に役立てていくべきかを考え続けている。



三次市長・ふるさと納税担当者の方へ提案



活動の振り返り

生徒の振り返り記述

最終的に総合でレベルアップした力を活用して、中学校の社会の先生になれようとして、高校に入学して出会う友達としっかりコミュニケーションをとっていきたいです。大人になったら、生徒たちに不登校の対策など、いろいろな人と関わっていくことの良さを考えていきたいです。

このような活動から、自分は調整力を身に付けることができました。自分と他者の意見の相異点を見つけて、新しい考えをだすことができました。将来、大人になった時互いの意見や考えを調整して、物事を考えていきたいです。また、自分の住んでいる地域に貢献できるように、地域の行事であるふるさと祭りなどでスタッフとして働きたいです。